

Vol. 1 ふぁみーゆツダコマ株式会社

「もにす認定制度」は、障害者雇用への取組状況が優良な中小事業主を厚生労働大臣が認定する制度です。

石川労働局とハローワーク金沢の職員が、もにす認定企業のふぁみーゆツダコマ株式会社（津田駒工業(株)の特例子会社）を訪問し、障害者の雇用に関し、鈴木紀子業務課長と社員の朴木隆浩さんからお話を伺いました。また、工場内で働く様子を視察しました。

（訪問日：2023年6月13日）



（写真左から）

河村智石川労働局職業安定部長、飯山浩史石川労働局総務部長
鈴木紀子業務課長、濱岡智子金沢公共職業安定所統括職業指導官

訪問企業概要

ふぁみーゆツダコマ株式会社 <https://www.famille-t.co.jp>

- ・所在地 金沢市野町 5-18-18
- ・設立 2011年4月
- ・従業員数 17名
- ・代表取締役 北野 浩司
- ・会社概要 津田駒工業(株)の特例子会社
繊維機械の組立、名刺印刷、給食発注等
- ・経営理念 心と体の健康、安全と笑顔
- ・障害者雇用の取組



県内最初の特例子会社。親会社からの作業マニュアルを、分かりやすく作成し直すなど、障害特性に配慮して業務を行っている。

石川県内のもにす認定企業や認定基準の詳細は
石川労働局ホームページをご覧ください

https://jsite.mhlw.go.jp/ishikawa-roudoukyoku/roudoukyoku/annai02/syokugyou_antei/sien01/_121016.html



ちょっとした工夫で出来ることはたくさんある

障害者雇用に取り組むきっかけは？

津田駒工業では、障害のある方を数名雇用していましたが、法定雇用率は未達成で、納付金も納めていました。そうした状況の中、2009年に当時の人事課長が大阪の企業の特例子会社を見学し、当社でもやりたいと考え、当時の社長に相談しました。

障害者雇用を進めるにあたり、企業内での雇用か、特例子会社か迷いました。企業内での雇用の場合は、それぞれの場所に支援者を配置することになりますが、特例子会社であれば、支援者を一箇所に配置でき、また、障害者同士の横のつながりもできるため、特例子会社を設立（※）し、障害者雇用に取り組むこととしました。

※ふぁみーゆツダコマ(株)は石川県内初の特例子会社

障害者雇用を進める際に試行錯誤した点は？



現在は、障害のある方が色々な製造現場に携わっています。年1回作業をローテーションしており、多能工化を図っていますが、当初は製造に携わる予定ではありませんでした。

設立当初からの社員は、雇用前の実習では、スキャン（電子化）をメインで行っていました。スキャン以外で何かできないかと考えていたところ、製造部のグループ長から「部品組立もできるのではないかと」提案があり、実習期間中に組立作業を経験させてみたところ、少し工夫をすればできると判断し、組立にも携わることになりました。

業務を受託する際に重要視していることは、危険度が少なく、なるべく工程の短い作業です。

当社の場合は作業場と親会社の生産ラインの工場が離れているので、運搬しやすいものというのもポイントになります。

障害のある方と働くにあたって心掛けていることは？

信頼関係を築くことです。一緒に食事をとったり、たまにはふざけた話をするなど、同じ空間で過ごす時間を作ることを心がけています。

失敗を恐れずにチャレンジできるように、失敗しても大丈夫！」と言ってあげるなど、守られていると感じてもらうことも必要です。そのためには一人ひとりを見ることが大切です。声掛けのタイミングも人によって違います。



もにす認定制度を取得に至った経緯、取得後の変化を教えてください

2年ほど前に、一度ハローワーク金沢から申請を勧められました。そのときは申請書類も多く、認定基準がクリアできるか分からなかったこともあり、一旦断りました。ただ、ハローワーク金沢の職員の方から、これまで金沢市にもにす認定企業が無いと再度勧められ、申請書類作成にも協力いただきながら申請に至りました。

認定後は、障害者関連施設から見学させてほしいとの問い合わせが数件ありました。

また、当社は全国障害者雇用事業所協会の会員企業ですが、他の会員企業にもにす認定が知られていて、声をかけられたりもします。

認定を取得することは会社の自信になりますし、申請書類を作成する際に、取組を見直す機会にもなります。名刺にもにすマークを入れてアピールできます。



障害者雇用を進める企業へのメッセージ

障害のある方にも、できることはたくさんあります。

それぞれ特性はありますが、ちょっとした工夫で多くのことができます。支援は一人では悩まないでください。同じ方向を向いた仲間が集まれば、いろいろなことを相談しあい、多くの工夫ができます。その結果として、多くの方が雇用されるようになると良いと思います。

自分が携わった仕事が世界へ



(写真左から) 鈴木業務課長、朴木隆浩さん

仕事の内容とこれまで携わった仕事は？

生産ラインで使うボルトとワッシャーをセットする仕事をしています。

これまで10種類位の仕事をしてきました。好きな仕事は、インパクトを使ってボルトを締める仕事です。

仕事のやりがいと会社の魅力を教えてください

自分たちが携わった作業によって作られた織機が、世界の色々な国で使われていくようになるのにやりがいを感じています。

日々の仕事では、自分がやっている作業の目標時間を達成できると楽しいです。

また、会社からいただいたお給料で、ライブに行ったりしてリフレッシュしています。

今後の目標

今後は、後輩のみんなに仕事を教えることもやっていきたいです。

朴木隆浩さんは、ふぁみーゆツダコマ(株)が設立された2011年4月当初からの社員です。

興味のあることにはめっぽう強く、スマートフォンやタブレットの扱いは長けていて、作業以外では、社内でDVDを使用する際の操作を任せています。また、実習生に積極的に話しかけるなど、社交的でもあります。(鈴木業務課長より)



編集後記

作業の現場を見せていただき、改めて様々な工夫がされていると感じました。どうやったらできるのか、社員が能力を発揮できる多くのアイデアが詰まっていました。

また、社員の皆さんが生き生きと働いていて、信頼関係がしっかりとできていると感じました。

引き続き多くの企業に対し情報発信を行い、障害者雇用の促進を図って参ります。

